

平成22年度共同研究の概要(成果報告書抜粋)

研究種別: 一般研究

研究代表者: 原 隆一 (大東文化大学 国際関係学部・教授)

研究協力者:

研究題目(和文):

西アジア、北アフリカの乾燥・半乾燥地域における水資源と生態資源をめぐる在来技術の利用と農村の経済社会開発の研究

研究概要(和文):

2010年度、海外現地調査を実施した。2011年3月6日から21日までの16日間、北アフリカ、アルジェリア国のサハラ沙漠にあるガルダイア地方とティムムン地方を中心とするオアシス地帯を訪ねた。前者では、ムザムの谷のワディ(涸川)に流れる洪水と井戸灌漑、それに沙漠のワディ・メトリリに流れる伏状洪水を観察することができた(年に1度あるかなないかの降水であった)。後者では、一般的にカナトと呼ばれている伝統的な地下灌漑導水路(ここではファガラ)を使ってヤシ園での溜池灌漑と小区画水田を観察した。

国内では、2010年6月25日、乾燥地研究センター安藤孝之准教授が主催する国際開発研究会にて、「イラン農村の水利用と社会変化の現地調査、30年を振りかえって」の題目でこれまでの調査研究を紹介講演した。また、2010年12月4日、鳥取大学乾燥センター・平成22年度共同研究発表会において「乾燥地の水資源利用と農村開発-イラン南部のマルヴダシュト・オアシス農村の事例-」の題目で口頭発表を行った。